

## 平成 30 年度学校法人智香寺学園事業計画

### I. 法人の部

学校法人智香寺学園は明治 36 年の東京府浅草区森下町（現在の台東区）で東京商工学校創設以来、平成 25 年度の 110 周年を契機とし、平成 26 年度より様々な記念事業を計画し展開しております。また、新施設建設支援、奨学金支援、教育研究推進支援などを目的とした『創立 110 周年記念事業および教育研究充実・学生諸活動等助成資金』の募集を、平成 26 年 2 月より 5 年計画で行っており、平成 30 年度も引き続き、記念事業計画を踏襲し進めていく予定です。

#### 主な記念事業の内容

##### 1. 電気自動車プロジェクトの実施

「自動運転車」の研究に世界中の企業や教育機関が熱を上げている中、本学でも平成 26 年に次世代自動車向けの革新的なものづくり拠点として「電気自動車プロジェクト」を立ち上げた。平成 27 年度に応募した文部科学省の「私立学校教育研究装置等整備費」の内定を受け、平成 30 年度も更に研究活動に注力していく方針である。基本的には「設計・作成チーム」「自動運転研究チーム」それぞれが高い目標を持って取り組んでいく。

また、先進的な研究開発を進める中、平成 29 年 10 月からは、内閣府が推進する「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)」の一つである「自動走行システム」の大規模実証実験に私立大学として唯一参加し、これまでの研究成果を存分に発揮している。また同時に埼玉県内初となる深谷市公道での実証実験も開始した。(実験期間：平成 29 年 12 月 1 日 (金) から平成 31 年 3 月 31 日 (日) まで) 平成 30 年度も引き続き人工知能の機能を用いた更なる最先端の自動運転研究を行っていく。

##### 2. 学内共同研究プロジェクトの募集

平成 26 年スタートした学内研究プロジェクトを更に推し進め、埼玉工業大学発の創造性に富む革新的な研究を推進し、特に若手研究者への支援を引き続き行う。

### II. 大学の部

#### 1. 周年事業

大学は、昭和 51 年に聖橋工業高等専門学校を前身として開学してから 40 余年という歩みの中、「テクノロジーとヒューマニティの融合と調和」をモットーに、単なる実学教育にとどまらず、学生一人ひとりの「こころ」の涵養により一層、力を注いでいきます。また、グローバル化や少子高齢化が著しく進展し、将来の予測が困難になっている現代において、大学には、地域社会、国際社会、産業界等社会のあらゆる分野における急激な変化に向き合い、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り開き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが求められています。そこで本学では、建学の精神と教育の理念に基づく教育研究活動を永続的に発展させるため、将来計画中長期ビジョン検討会を設置し、ビジョンの実現に向けた進捗状況を判断するために、次の目標を設定しました。

(1) 入学定員の確保 100%+α

(2) 離籍率 (1 年間) 3%以下

(3) 就職率 95%以上

これらの目標を達成するための戦略として、

- I. 入学戦略
- II. 教育改革・学生支援戦略
- III. キャリア・就職支援戦略
- IV. 地域連携戦略
- V. 研究活動活性化戦略
- VI. 管理運営体制

の強化戦略の6項目を掲げ、その具体的な取組みを実施していきます。

## 2. 自己点検評価

平成25年度に受審した大学基準協会の認証評価について、平成28年度に「改善勧告」「努力課題」に対する改善報告を行ったところである。現段階において、期待される結果には道半ばの状況であり、引き続き改善項目に対する実のある点検作業を実施し、改善に努めてゆく。また、平成32年3月31日で認定期間が終了することから、継続申請のための動きを平成30年4月の大学評価実務説明会より開始する。

## 3. 学部教育

- ・質の高い大学教育推進プログラムへの取組
- ・学生プロジェクトを始めとした学生支援のより強化
- ・退学者対策の強化

## 4. 学生募集計画

平成30年度生の学生募集は現在進行中であり結果は出ていないが、平成31年度生の学生募集を実施するにあたり、2018年問題に突入した厳しい環境の中で如何に特色をだし、受験生にアピール出来るかを考え、全学一丸となって学生確保に邁進したい。

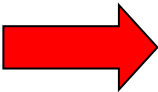
### (A) 大学院

| 工学研究科    |      | 人間社会研究科   |      |
|----------|------|-----------|------|
| 専攻名      | 募集定員 | 専攻名       | 募集定員 |
| (博士前期課程) |      | (修士課程)    |      |
| 機械工学専攻   | 6名   | 情報社会専攻    | 15名  |
| 情報システム専攻 | 7名   | 心理学専攻     | 10名  |
| 生命環境化学専攻 | 7名   |           |      |
| 小計       | 20名  | 人間社会研究科合計 | 25名  |
| (博士後期課程) |      |           |      |
| 機械工学専攻   | 2名   |           |      |
| 情報システム専攻 | 2名   |           |      |
| 生命環境化学専攻 | 2名   |           |      |
| 小計       | 6名   |           |      |
| 工学研究科合計  | 26名  |           |      |

(B) 学部

| 工学部                                 |            | 人間社会学部                             |            |
|-------------------------------------|------------|------------------------------------|------------|
| 学科・専攻名                              | 募集定員       | 学科名                                | 募集定員       |
| 機械工学科<br>(機械工学専攻)<br>(ロボティクス専攻)     | 75名<br>40名 | 情報社会学科<br>(経営システム専攻)<br>(メディア文化専攻) | 50名<br>40名 |
| 計                                   | 115名       | 計                                  | 90名        |
| 生命環境化学科<br>(バイオ・環境科学専攻)<br>(応用化学専攻) | 65名<br>45名 | 心理学科<br>(ビジネス心理専攻)<br>(臨床心理専攻)     | 25名<br>25名 |
| 計                                   | 110名       | 計                                  | 50名        |
| 情報システム学科<br>(IT専攻)<br>(電気電子情報専攻)    | 85名<br>50名 | 人間社会学部合計                           | 140名       |
| 計                                   | 135名       |                                    |            |
| 工学部合計                               | 360名       |                                    |            |

※工学部 情報システム学科の専攻を平成31年度生より、現在の2専攻から3専攻に数を増やし、同時に専攻名を一部変更予定

|                                  |   |  |
|----------------------------------|---|--|
| 【平成30年度】                         |  | 【平成31年度】                                 |
| 情報システム学科<br>(IT専攻)<br>(電気電子情報専攻) |   | 情報システム学科<br>(IT専攻)<br>(AI専攻)<br>(電気電子専攻) |

※工学部は、平成31年度生より各学科の定員を以下のとおり変更予定

【平成31年度】

| 工学部                                    |      |
|--|------|
| 学科・専攻名                                 | 募集定員 |
| 機械工学科<br>(機械工学専攻) / (ロボティクス専攻)         |      |
| 計                                      | 120名 |
| 生命環境化学科<br>(バイオ・環境科学専攻) / (応用化学専攻)     |      |
| 計                                      | 90名  |
| 情報システム学科<br>(IT専攻) / (AI専攻) / (電気電子専攻) |      |
| 計                                      | 150名 |
| 工学部合計                                  | 360名 |

5. 情報公開

学校教育法施行規則に則り、来年度も教育情報・財務情報など情報公開の拡充と、日本私立学校振興・共済事業団で行っている「大学ポートレート」を活用し多くの最新情報の公開を引続き実施する。

## 6. 研究計画

### ①次世代自動車関連

平成 29 年度活動報告

学内プロジェクト「次世代自動車向けのものづくり研究」を今年度も継続して実施し、本学オリジナルの次世代自動車「SAIKO カー」の製作を目標に、研究・開発に取り組んでおります。

設計・製作チームでは超軽量車体構造の設計・解析を行っており、金属素材の選定等も完了し、完成へ向け一部車体部品の製造を開始しております。

自動運転チームでは、アクセル・ブレーキ・ステアリング制御システムの構築、制御用ネットワークの構築を行い、構築したシステムを電気自動車コムスへ搭載し、実験を行っております。コムスで動作実験を行い、来年度は SAIKO カーへの搭載を目指しております。

自動運転車 ZMP ロボカーにつきましては、今年度は学内での試験走行だけではなく、自動車学校の教習コースをお借りしての実験走行を行い、公道に近い環境で、信号認識や周辺認識・衝突回避についての実験を実施しました。学内、教習コースといった限られた区域内での走行の他、公道での走行を行えるよう、センサー類の換装・強化を行い、内閣府戦略的イノベーション創造プログラムの大規模実証実験に参加し、東京臨海地域周辺の公道に於いて走行実験を実施しました。また、地元である深谷市のご協力の下、埼玉県内初となる公道に於ける自動運転実証実験を深谷市内の公道に於いてスタートさせ、12月13日に多くのご来賓の方々にご臨席を賜り、始走式を挙行了いたしました。深谷市での実証実験では、冬期の強風に伴う砂嵐など、深谷市ならではの気象条件下での自動運転実現に向けて取り組んでおります。公道での実証実験は、いずれも平成 30 年度末まで実施予定で、来年度は高速道路などの自動車専用道路での実験も予定しております。

### ②平成 29 年度科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※平成 29 年度科学研究費獲得者

| 研究種目     | 新規<br>継続 | 所 属      | 代表者   | 29 年度<br>直接経費 | 29 年度<br>間接経費 |
|----------|----------|----------|-------|---------------|---------------|
| 基盤研究 (B) | 新規       | 先端科学研究所  | 丹羽 修  | 5,600,000 円   | 1,680,000 円   |
| 基盤研究 (C) | 新規       | 情報社会学科   | 佐藤 由美 | 1,000,000 円   | 300,000 円     |
| 若手研究 (B) | 新規       | 機械工学科    | 小板 丈敏 | 2,300,000 円   | 690,000 円     |
| 基盤研究 (B) | 継続       | 先端科学研究所  | 内田 正哉 | 600,000 円     | 180,000 円     |
| 基盤研究 (C) | 継続       | 情報システム学科 | 渡部 大志 | 400,000 円     | 120,000 円     |
| 基盤研究 (C) | 継続       | 機械工学科    | 趙 希禄  | 600,000 円     | 180,000 円     |
| 基盤研究 (C) | 継続       | 機械工学科    | 安藤 大樹 | 800,000 円     | 240,000 円     |
| 若手研究 (B) | 継続       | 生命環境化学科  | 秋田 祐介 | 1,100,000 円   | 330,000 円     |
| 基盤研究 (C) | 継続       | 情報社会学科   | 田中 克明 | 1,200,000 円   | 360,000 円     |
| 基盤研究 (C) | 継続       | 機械工学科    | 石原 敦  | 1,400,000 円   | 420,000 円     |
| 基盤研究 (C) | 継続       | 生命環境化学科  | 木下 基  | 1,700,000 円   | 510,000 円     |
| 基盤研究 (C) | 継続       | 生命環境化学科  | 秦田 勇二 | 1,400,000 円   | 420,000 円     |
| 若手研究 (B) | 継続       | 生命環境化学科  | 松浦 宏昭 | 800,000 円     | 240,000 円     |
| 若手研究 (B) | 継続       | 機械工学科    | 長谷 亜蘭 | 1,200,000 円   | 360,000 円     |
| 若手研究 (B) | 継続       | 生命環境化学科  | 本郷 照久 | 900,000 円     | 270,000 円     |
| 計        |          |          | 15 件  | 21,000,000 円  | 6,300,000 円   |

## 7. 産業技術展示会への研究展示計画

- ①イノベーションジャパン出展（8月）
- ②諏訪圏工業メッセ出展（10月）
- ③2017 さかきモノづくり展（10月）
- ④埼玉県産業教育フェア出展（11月）
- ⑤埼玉県彩の国ビジネスアリーナ出展（1月）

## 8. 地域交流計画

平成29年度に実施した各種イベントについて、平成30年度も踏襲し実施する。

- ①「市民のための公開講座（8講座）及び心理学セミナー（6回）」を開催
- ②先端科学研究所協力会講演会及び企業見学会を開催  
平成29年度（実績）：講演会3回（6月、12月、平成30年3月）  
企業見学会 平成29年5月26日（金） アイリスオーヤマ埼玉工場  
参加者：43名（教職員、学生、一般企業、商工会議所など）
- ③科学と仏教思想研究センター公開セミナーを開催  
平成29年度（実績）：平成29年10月21日（土）  
テーマ：日本仏教の瞑想（1）
- ④子ども大学ふかやの開催(埼玉県教育委員会との協賛事業)  
(子ども大学ふかや学長 内山俊一 学長 実行委員長：教育研究協力課 小林義雄)  
平成29年度（実績）：深谷市内の小学校4年生～6年生、50名参加  
：本学会場他5日間開催
- ⑤正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。  
(協定校：平成30年3月現在 合計34校)  
[内訳] 高校32校・専門学校1校・日本語学校1校  
・協定校との体験授業実施（12校）  
・インターンシップ事業（協定校の生徒受入れ3校）
- ⑥高大連携協定による学校評議員の推薦  
・埼玉県立熊谷工業高等学校 井門俊治 特任客員教授  
・埼玉県立妻沼高等学校 生命環境化学科 熊澤 隆 教授  
・埼玉県立深谷商業高等学校 井門俊治 特任客員教授
- ⑦深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。  
・ふかや市民大学（生涯学習）へ委員及び講師の派遣  
・深谷市社会教育委員会委員の派遣  
・メンタルヘルス相談業務委託（臨床心理センター）の継続  
・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）  
・深谷市「砂ぼこり対策協議会」へ委員の派遣  
・深谷市教育委員会と共催で「子ども向け科学講座」の開講  
・日本機械学会主催の「ものづくり体験教室」を児童向けに開催  
・彩の国いきがい大学熊谷へ講師の派遣  
・「深谷観光振興プロジェクト推進委員会」へ委員の派遣  
・深谷市と共催で「深谷ものづくり博覧会」を開催

- ⑧長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携を推進する。
- ・埼玉工業大学坂城町講座「おもしろ化学実験」
  - ・「坂城触れ合い大学」市民講座へ講師派遣
  - ・「坂城触れ合い大学」埼玉工業大学坂城町講座「お出かけ編」
  - ・長野県坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
  - ・坂城町との連携協定に基づく連携会議
- ⑨日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」を実施  
平成 29 年度（実績）平成 29 年 10 月 4 日（水）～10 月 13 日（金）10 日間  
参加者：中国の各大学より若手研究者 10 名  
内 容：次世代自動車向けものづくり技術に関する研究と研究施設見学など

## 9. 就職計画

（地域交流）

- ①坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業
- ・坂城町企業見学会（9月に2日間実施予定）
  - ・坂城町企業の企業研究セミナー参加（2月開催予定）
  - ・大学と坂城町企業との意見交換会及び企業見学会（10月開催予定）
- ②長野県との「ふるさと信州学生Uターン就職促進に関する協定」における事業
- ・長野県内企業との情報交換会（10月開催予定）
  - ・長野県内企業の企業研究セミナー（2月開催予定）
- ③群馬県中小企業家同友会との連携協定における事業
- ・群馬県中小企業家同友会加盟企業による業界研究セミナー参加（2月開催予定）
- ④栃木県との「U I ターン就職促進に関する協定書」における事業
- ・栃木県産業労働観光部の企業研究セミナー参加（2月開催予定）
- ⑤諏訪工業メッセ関連事業
- ・諏訪工業メッセにおける地元企業との情報交換会（10月予定）
  - ・諏訪工業メッセ見学会

（学生支援講座・ガイダンス）

- ①公務員対策講座（8月～9月、2月開催予定）
- ②学年別就職ガイダンス（4月～2月複数回実施予定）
- ③インターンシップガイダンス・インターンシップマナー講座（5月開催予定）
- ④埼玉県大学就職問題協議会主催：17大学合同企業説明会（8月開催予定）
- ⑤面接実技研修（12月～ 複数回開催予定）
- ⑥個別面接研修（2月・3月予定）
- ⑦女子メイクアップ講座（1月予定）
- ⑧スーツ着こなし講座（1月予定）
- ⑨SAIKOドリル（6月～）
- ⑩筆記試験対策講座（SPI/CAB・GAB/クレペリン/webテスト/玉手箱 他）

（学内合同企業説明会等）

- ①4年生向け合同企業説明会（4月・9月開催予定）
- ②3年生向け業界研究セミナー（12月開催予定）
- ③3年生向け企業研究セミナー（2月開催予定）

- ④3年生向け合同企業説明会（3月開催予定）
- ⑤ミニ合同説明会（4月～2月複数回実施予定）
- ⑥個別会社説明会（4月～2月複数回実施予定）

（保護者向け就職ガイダンス）

- ①4年生・3年生 保護者向け就職ガイダンス（5月1回開催予定）

（学生支援事業）

- ①ハローワークジョブサポーター相談（4月～3月）
- ②キャリアカウンセラーによる相談（4月～3月）
- ③工学部学生対象工場見学会（埼玉・群馬 各県2社見学予定）

（情報交換会及び加盟団体）

- ①県及び情報サービス産業協会主催の就職情報交換会参加
- ②埼玉県大学就職問題協議会
- ③関東地区大学理工系就職研究会

### III. 高校の部

「正智深谷高校イノベーション計画」(SHIP)を掲げて3年目となる平成30年。5年計画で取り組みを始めたSHIPに基づく新しい枠組みでの入学生を迎えることとなります。これまで検討を重ね、準備を進めてきた事項をいよいよ実行に移す段階となりました。平成32年度(2020年度)に控える大学入試改革を意識すると同時に、社会から求められる学力の変化に対応するため、新しい教育への取り組みを進めていきます。しかしながら、昨年までに入学した在校生に対しても丁寧に対応していく必要があるため、在校生に対しては新しい取り組みを部分的に取り入れながら、新入生の入学年度に合わせて段階的に進めていきます。現在SHIP推進委員会を中心に様々な準備を進めていますが、全教員が当事者意識を持ち、積極的に実行していくことをお願いしています。

社会情勢の変化は著しく、これまで正解とされてきた常識が通用しない時代に突入しつつあります。教員個々の能力だけでは対応しきれない多様化した現代社会だからこそ、教員同士の結束が不可欠となります。「不易流行」の言葉通り、良い部分は共有し、継続する。改めるべきところは改め、新しいものを取り入れていく。そして、教員同士がお互いを「尊敬(リスペクト)する気持ちを忘れずに、新たな教育に全力で取り組んでいきたいと思えます。

#### 1. 正智深谷高校が育てたい人間像【3つのミッションより】

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>①自己肯定感を育み、他者を認めることができる人</li> <li>②問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人</li> <li>③夢(ビジョン)を持ち、そのための努力を継続できる人</li> </ul> |
|---|

#### 2. 本校の教育の目標

|  |
|--|
| <p>仏教精神に基づき、真理を追究し、和を尊び、<br/>平和を重んずる規律正しい人間、智慧を求める人間を育成すること。</p> |
|--|

深谷市の先人 渋沢栄一翁にその姿を見る

渋沢栄一翁は近代日本の礎を築いた郷土の偉人であり、多種多様な企業の設立に携わったのみならず、教育や福祉、さらには国際親善でも多くの業績を残しています。著書「論語と算盤」では、

「道徳経済合一」の考えを示し、企業の目的が「利潤の追求＝算盤」にあるとしても、その根底には「道徳＝論語」が必要であり、国ないしは人類全体の繁栄に対して、責任を持たなければならないことを示しています。ここで言う「論語」を「仏教精神」に置き換え、「算盤」を「キャリア教育」に置き換えると、本校が目指す人物像が洪沢栄一翁と重なってきます。併せてパリ万博視察やヨーロッパ各国訪問など、早くからグローバルな視点を持っていた点も本校の進める教育と重なります。本校の育てたい人物像を郷土の偉人、洪沢栄一翁として具体的に示すことができると言っても過言ではありません。

①「自己肯定感を育み、他者を認めることができる人」を育てる

- ・生徒の「承認欲求」を十分に満たすアプローチを意識して実行する。  
【例】毎朝 SHR で名前を呼んで出席を取る。目を見て、フルネームを呼んで、存在をきちんと認める。
- ・人格を否定するような指導、感情的な一方的な指導は厳に慎む。「怒る」指導から「叱る」指導へ。体罰はもちろん、怒鳴り散らす・威圧的な態度をとる・著しく乱暴な言葉遣いには十分に注意する。
- ・各教員の実践や取り組みを批判的に捉えず、教員間でお互いに認め合い、それぞれの実践を共有する。

②「問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人」を育てる

- ・各教科で PBL をはじめとする双方向型授業を積極的に導入し、結果を教科会議で共有する。
- ・思いやりの気持ちを常に忘れず、自分が周囲に貢献できることへの取組みを促す。  
【例】学習環境の美化（日常清掃の徹底・整理整頓・進んでゴミを拾う等）。
- ・文化祭などの学校行事等を通じて、協働意識の向上とそこから生まれる喜びを共有する。

③「夢（ビジョン）を持ち、そのための努力を継続できる人」を育てる

- ・「夢」を「ビジョン＝目標」として明確にするために、様々な機会を作り、キャリア意識の向上を図る。
- ・教員の体験や経験を自らの言葉で語ることを通して、職業観の育成やビジョン構築の一助とする。
- ・進路指導部によるキャリア教育を有効活用し、当事者意識を持った取組みを促す
- ・新たに始まる G-CAT（キャリア教育型修学旅行）のプログラムを通じて生徒のビジョン構築を促す。

### 3. 行動指針

- ①学校は「学び」「学び合う」場
- ②教師は「教える職人」「学びの専門家」「あるべき大人の見本」

#### 「学び」「学び合う」場

- ・学校生活の基本は学習にあり。そのための「意識」「環境」を率先して作り、生徒へ浸透させる。
- ・生徒同士の「学び合い」はもちろん、教員間でも謙虚に「学び合う」意識を常に持つ。

#### 「教える職人」として

- ・日頃より教材研究に努め、指導力の向上を図る。



- ・求められる学力の変化に合わせて、意識改革を図り、新しい教育手法を積極的に取り入れていく。
- ・PBL等の双方向型授業を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実践を図る。
- ・iPadや電子黒板などを積極的に取り入れ、その実践を共有し、教育力の向上とスキルアップを図る。

《学力の3要素》（高大接続改革答申より）

- ①基礎的な知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力等の能力
- ③主体性・多様性・協働性

### 「学びの専門家」として

- ・常にアンテナを高くし、大学入試改革や教育関連情報などの収集に努め、その共有に努める。
- ・多様化する生徒へ対応するため、コーチングやエンカレッジ等の様々なアプローチを学ぶよう努める。

### 「あるべき大人の見本」として

- ・「当たり前のことを当たり前にする」大人の姿を教員自らが示す。
- ・清潔感を持った身だしなみを常に心掛ける（服装・整髪・髭を剃る／整える・酒／タバコの臭い等）。
- ・気持ちの良い挨拶を徹底して実行する（年令・立場・人間関係問わず）。  
「挨拶がしっかりできる生徒」を育てたい。そのための第一歩を教員自ら示していきたい。
- ・常に丁寧な言葉遣いを心掛け、お互いが気持ちよく会話ができるよう意識する。
- ・教員間の呼び合いは「〇〇先生」で統一する。愛称やニックネーム、呼び捨てなどでは呼ばない。
- ・呼び出し放送には必ず「〇〇さん」「〇〇くん」を付ける。
- ・学校は職場であることを常に意識し、職務に専念する。授業や指導に無関係な個人的行為は厳に慎む。  
（音楽視聴・動画視聴・資料コピー・写真印刷・ダビング・インターネットの私的活用等）。
- ・個人情報の取り扱いには十分注意し、個人データ等の学外への持ち出しは厳禁とする。
- ・職員会議は重要な情報共有の場であり、可能な限り出席する（やむを得ない場合は、教頭へ相談）。
- ・教育者として、我々教員の「言動」「行動」全てが、常に見られていることを忘れない。  
その姿が学校の評価につながり、生徒募集に繋がっていることを常に意識する（生徒・保護者・地域）。

## 4. 教務について

- ・学力向上のためのこれまでの取組みの精査と検討。
- ・「高校生のための学びの基礎診断」に向けた準備と対策の検討。
- ・新学習指導要領の研究と教育課程の検討。

## 5. 進路指導について

- ・特別進学系の活性化と大学進学実績の向上に向けた課題の抽出とその解決に向けた取り組みの検討。
- ・大学進学だけでなく、生徒個々人の希望進路の実現に向けた取り組みの強化。

- ・埼玉工業大学との高大接続教育に向けた課題の抽出とその解決に向けた取り組みの検討。
- ・新たに採用する Classi の効果的な活用と教員の使用スキルの向上を図る。

## 6. 生活指導について

- ・本校の「不易」の部分であり一定の対外的評価を得ている、規範意識の更なる定着と向上。
- ・社会で通用する常識（挨拶・身だしなみ・言葉遣い・マナー）を日常より意識させる指導の実践。
- ・社会情勢や生徒の性質の変化に伴う効果的な指導の検討。
- ・学校中に気持ちの良い挨拶があふれる環境作りに向けた取り組みの検討。

## 7. 授業について

- ・授業開始時間と終了時間を厳守し、授業時間を有効に活用する。
- ・iPad を授業に積極的に取り入れ、教科会議等で共有を図り、教員のスキルアップを図る。
- ・2、3 年生については学校備品としてタブレット端末を整備し、可能な範囲で授業へ取り入れていく。

## 8. 生徒募集活動について

- ・今年度の反省を踏まえ、効果的の有無を検討し、継続または改善を図る。
- ・教員の負担軽減を図りつつも、対労力効果の高い募集活動の検討。
- ・SHIP に基づく新たな取り組みのオンタイムの広報活動の検討。
- ・明確な戦略に基づいた戦略的生徒募集活動の検討。新たな媒体や広報ツールを活用した広報活動の検討。

## 9. 働き方改革への取り組み

- ・休業土曜日の設定。
- ・校時の変更に伴う勤務時間の変更。
- ・週に一日の研究日の設定。実施方法については今後検討していく。
- ・会議の効率化（時間短縮・資料のペーパーレス化・日常のコミュニケーションの積極活用）。
- ・iPad や正智ウェブを活用した日常業務の効率化。

## 10. 宗教教育について

- ・建学の精神の具現化に向けた新たな取組みの検討。
- ・総合学習および宗教の授業の精査と検討→平成 32 年度に向けて検討。

## 11. 平成 30 年度からの主な変更点

### ①系統コースの再編成

平成 30 年度入学生よりコース系統を以下のように変更すると同時に、入試の目安基準を見直しました。これは入学生の学力水準の引き上げと効率的なクラス編成を行うことを目的としたものです。併せてスポーツ系を発展的に解消し、カリキュラムを特別進学系と総合進学系の二本立てとしました。県内では一定以上の評価を得ているスポーツの実績により「スポーツ **が** 強い正智深谷」との評価は定着しつつありますが、進学指導や学業面でも充実している点を更にアピールし、「スポーツ **も** 強い正智深谷」への脱却を図る上での方策として、浸透していくことを願っています。

現在のコース編成【3系統6コース】

| コース  |        | 単願 | 併願 |
|------|--------|----|----|
| 特進   | Sプラス   | 65 | 67 |
|      | Sアスリート | 58 | 60 |
|      | Sセレクト  | 55 | 58 |
| アタック | P      | 50 | 53 |
|      | A      | 45 | 47 |
| スポーツ |        |    |    |

新しいコース編成【2系統4コース】

| コース |      | 単願 | 併願 |
|-----|------|----|----|
| 特進  | Sコース | 65 | 67 |
|     | Hコース | 60 | 62 |
| 総進  | Iコース | 55 | 58 |
|     | Pコース | 50 | 53 |

※表中の数字は偏差値

## ②授業時間ならびに学校時の見直し

全学年で1コマ45分授業に変更します。これにより1日当たりの授業コマ数を増やすことが可能となり、新入生からは、特進系では平日は全て7時間授業、総進系でも週2回7時間授業を行います。また、正規の授業は月～金の間で済ませ、土曜日には特別時間割による土曜講座（SSS／正智 Saturday Special）を実施します。土曜講座を設置する目的は、大学入試改革に合わせた英語外部試験対策、思考型入試対策、ニュース検定対策を通しての時事問題意識の向上など、求められる学力の変化に対応するためです。新2・3年生については、現行のカリキュラムを踏襲しつつ、新しい授業時間に合わせる形となるため変則的な時間割りとなります。そのため土曜日であっても土曜講座は実施せず、通常の授業と行います。

また、月に1回、第4土曜日を基本として土曜日を休業日とします。このことにより、生徒のクラブ活動やボランティア活動などの課外活動への積極的な関わりを促すと共に、教員の「働き方改革」の一助としたいと考えています。休業土曜日の代替として、全学年共通で土曜日のみ1コマ60分で授業を行います。

## ③タブレット端末の活用

ICT教育の充実が叫ばれている中、新1年生より全員がタブレット端末（iPad）を購入し、各授業の中で積極的に活用していきます。Wi-Fi環境については、一昨年までの耐震リニューアル工事で完了している校舎が大半ですが、整備が完了していない校舎についても本年3月までに全て完了する見込みとなっています。また、電子黒板を2台特別教室に設置しましたが、今年度以降、国や県によるICT補助金の拡大が計画されていることと併せて、段階的に利用できるICT機器の整備が進められればと考えています。

指導する教員側については、すでに昨年より複数回ICT研修、タブレット研修を実施していますが、今後も指導スキルの向上と指導法の研究のために、教員研修や公開授業等を積極的に行い、ICT教育の充実を図っていきます。

## ④双方向型授業への取組み

PBL（Problem Based Learning）をはじめとする双方向型授業（アクティブラーニング／AL）を、全ての教科で積極的に取り入れてください。各教科内で共有を図ることはもちろん、公開授業なども行い実践例を共有していきます。新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が掲げられています。アクティブラーニングには様々な手法がありますが、教科や授業の性質に合わせて、有効なAL手法を取り入れることを意識して授業を行っていきます。

### ⑤グローバル教育について

現在夏季休暇中に実施している海外研修（ニュージーランド）を更に発展させ、現地校との姉妹校提携や学期留学や長期留学、交換留学生の受け入れ拡大などの取組みを、担当部署を中心に推し進めていきます。

### ⑥キャリア連動型研修旅行の実施

現在の修学旅行を根本的に見直し、単なる修学旅行からの脱却を図っていきます。具体的にはキャリアとグローバルをキーワードに、3年間を通じて、ビジョンを構築し、キャリアプラン（目標進路）を明確にすることを目標にしています。グローバルな視野に立った上で訪問国を決め、そこでの様々なプログラムを組み込んでいきます。2年次の研修旅行後もその体験を振り返り、研修旅行を「点」で終わらせることなく、「線」として3年間つなげていくことを目的とした新たな取組みです。

## 1.2. 今後の展開について

平成30年度入学生から SHIP に基づく、新コースならびに新しい教育内容となりますが、全学年が新コースへと移行するまでに3年間掛かります。平成32年度には全学年が同一の時間割りとなるので、それを契機に更に一步進んだ教育内容への転換を計画しています。また、平成32年度には「大学入学共通テスト」や「高校生のための学びの基礎診断（基礎学力確認テスト）」の実施などが控えています。併せて東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから、スポーツの在り方も変化してくることが予想されます。

その後、平成34年度には新しい学習指導要領が実施されます。ここでは教育課程が大きく変更されることがすでに公表されています。こうした意味では、今後少なくとも2回は大きな転換点を迎えることとなります。併せて少子化傾向も続くことから、市場の縮小は必然といわざるを得ません。その時こそ、本校の真の教育力が問われる時となります。こうした大きな転換期に向けて、平成30年度がその第一歩となることを十分意識し、新しい年度に向かっていきたいと考えています。

| 年度              | 1 学年 | 2 学年 | 3 学年 | 特記事項  |
|-----------------|------|------|------|---|
| 平成30年<br>(2018) | 新コース | 旧コース | 旧コース | 新教育課程の周知徹底  |
| 平成31年<br>(2019) | 新コース |      | 旧コース | 新教育課程先行実施スタート   |
| 平成32年<br>(2020) | 新コース |      |      | 大学入学共通テスト実施<br>高校生のための学びの基礎診断実施<br>新課程教科書検定<br>東京オリンピック・パラリンピック |
| 平成33年<br>(2021) | 新コース |      |      | 新課程教科書採択・供給   |
| 平成34年<br>(2022) | 新コース |      |      | 新指導要領年次進行にて実施<br>新課程教科書使用開始<br>創立70周年                           |